



最近の一つの、いとも簡単に受け止められる傾向



福岡県知的障害者福祉協会

会長 小峠 繁

十月六日付、西日本新聞朝刊二面に「九州の障害者 作成1割」・二十六年定期限のケアプラン：という大見出しで、大々的に報じられていた。

障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）及び児童福祉法の一部改正により、障害者向けケアマネジメント手法が義務付けられ、平成二十六年度末までの三年間で、障害福祉サービスや障害児通所支援を利用する全ての利用者には、「サービス等利用計画」を作成する事となっていることは、ご承知であろう。各市町村が利用者に対し、指定の相談支援事業所で作成するように求め、それぞれの相談支援事業所に所属する相談支援専門員が利用者側から依頼を受けて作成する事になっている。

わが福岡県は計画が作成されている利用者が975人、サービス利用者は現在、36842人で、また26%の策定率。鹿児島は、サービス利用者17661人に対し、2672人、15・1%の策定率。九州7県の平均策定率が90%であり、これに比してもわが福岡県の立ち遅れが際立っている。

相談支援事業所数は、鹿児島で173カ所。これに次ぐ2位の福岡県は142カ所（ちなみに九州7県の総数は653カ所）である。また、専門員の資格者（研修受講者）自体は、県内で2100人いるものの事業所に属している者は、わずか183人というのが実情である。

計画作成には、利用希望者宅に最低3〜4回は通い、心身の状態を把握しながら、本人や家族の要望を聞き、サービス事業者を探して計画を作る。より本人の望むサービス利用計画に近づけようとすればするほど、きめ細かく作ろうとすればするほど、手間がかかり、その分時間が必要となる。そうした労力の割に報酬単価に限りがあり、予想以上に低く抑えられている現状がある。

報酬が抑えられていることも課題だが、事業者側の厳しい事情もある。相談支援専門員は、知的・身障・精神のあらゆる分野での、それなりの経験と知識が求められ、誰でもがすぐにできる職種ではない。こうした経験豊富な職員は、施設内でも重要な役割を担っており、相談支援専門員として専従させることが難しいというのが実情でもある。

また、日々の実戦現場サイドからすれば、それなりの重要なポストも任せられる人材でもあり、それに見合うだけの報酬が担保されていないことも重なって、策定率が向上しないのである。さらに「育つものにも、育ていくものにも時間がかかる」との現場の声も大きい。

ところで、「相談員」という言葉の響きは、俗にいう「かっこいい」職業に思えるのだろうか。

か。職員募集の際、驚かされることにしばしば出会う。大変さを余り理解していないと承知してはいるが、「相談支援はどのような仕事だと思えますか？」の問いに対して、少し経緯が違えば誰でも直ぐにでもできるような勘違いが多く、「相談支援ならできやうです」と即座に答える人が多いのである。「支援員」より「相談支援員」という職種に応募してくる人が後を絶たない事にも驚かされている。

確かに、改正法は利用者の近くに相談支援事業所がない場合、本人や家族による作成（セルフプラン）を認めているが、「知的障害分野」にはなかなか馴染まないことも多い。「第三者」が効果的なサービスを判断し、提供する」のが前提の制度として、事業所による作成を促す方針ではあるが、なかなか進んではない。

相談支援員の育成と確保という緊急課題に取り組み中、福祉分野での求人に限りがあっても現状において、応募者があることを喜ぶべきかもしれないが、考えさせられる昨今の現状である。

目次

- 会長のあいさつ…………… 1
- スポーツ大会報告…………… 2
- ディスコパーティー・ときめきスポーツ大会 …… 3
- 平成25年度第1・2回施設長研修会
新任職員研修会…………… 4
- 第39回九州地区地域生活者交流会（沖縄大会）
九州地区知的障害関係施設職員研修大会（大分大会）… 5
- 保護者会連合会研修会・手をつなぐ育成会福岡県大会
福祉施設の人材確保の5ポイント …… 6
- 新加盟施設紹介…………… 7～8

第43回

ソフトボール大会

平成25年5月9日(木)雁ノ巣レクリエーションセンターで、第43回ソフトボール大会が開催されました。当日は天候にも恵まれ、選手の皆さんは日頃の練習の成果を十分に発揮され、各パートでは白熱した試合が行われました。好プレーや珍プレーもありベンチからの応援も大変盛り上がりつていました。試合終了後は互いの健闘をたたえ合い、他チームの選手と会話等をして交流を深めている姿も見られました。選手の皆さんも怪我なく無事に大会を終える事が出来ました。参加施設より御協力いただきました実行委員、審判の皆様をはじめ、関係者の方々の御協力有難うございました。



第43回
ソフトボール大会 結果一覧

	Aパート(6)	Bパート(6)	Cパート(6)	Dパート(4)	Eパート(5)
1位	健康荘	若久緑園	天心園	みろく園	ほっとスペースあさくら
2位	第一野の花学園	第二・第三白梅学園	清浄学園	城島ワークセンター	北野学園
3位	こすもす園・京都	あすなろ学園	さくら学園	月の輪学園	ひびき学園
4位	周防学園	若宮園	さいがわ学園	翔朋学園	あきさと園
5位	桂木とくのみ園	第二北野学園	なのみ工芸	-	母原
6位	第二田川学園	第二赤坂園	田主丸一麦寮	-	-

第19回

ソフトバレーボール大会

平成25年6月20日(木)かすやドームスポーツセンターで、第19回ソフトバレーボール大会が開催されました。Aパート9チーム、Bパート9チームで予選が行われました。その後、決勝トーナメントや順位決定トーナメントに分かれ、熱い戦いが繰り広げられました。今大会は、逆転試合や3セットまでもつれた試合など接戦した試合もあり、選手の皆さんは練習の成果を十分に発揮され、チームメイトと声を掛け合う姿が多い、活気あふれる試合となりました。また、怪我もなく1日楽しく過ごされ、表彰式の際には皆さん充実した笑顔で拍手を送り、お互いの健闘をたたえ合う姿が見られました。皆さん、本当にお疲れ様でした。

第19回
ソフトバレーボール大会
大会結果一覧

順位	Aパート(9)	Bパート(9)
第1位	健康荘	さくら学園
第2位	桂木とくのみ園	清浄学園
第3位	第三白梅学園	第二北野学園
第4位	月の輪学園	若宮園
第5位	あすなろ学園	こすもす園・京都
第6位	蓮の実団地	天心園
第7位	刈田学園	母原
第8位	周防学園	なのみ工芸
第9位	若久緑園	みろく園



ディスコパーティー

平成 25 年 10 月 30 日（水）飯塚市の「のがみプレジデントホテル」で、ディスコパーティー 2013 が開催されました。回を重ねる毎に参加者が増えており、今年は 704 名もの方に参加いただきました。

毎回、快く引き受けていただく「モリカズ BAND」さんのエネルギッシュな生演奏に、参加された皆さんも一緒に歌ったり、踊ったりと体全体で楽しさを表現されていました。

途中に立食にて休憩を取られながら、抽選会で一喜一憂する場面もあり、他の施設の方とも親交を深め、会場全体で大盛り上がりのディスコパーティーとなりました。



〈モリカズ BAND のみなさん〉

平成 25 年 9 月 14 日（土）に久留米市の久留米総合スポーツセンターで、第 33 回ときめきスポーツ大会が開催されました。大会は、86 団体、2087 名の方が参加し、陸上競技、

卓球、ボウリング、フライングディスク等、各種目において選手の皆さんは日頃の練習の成果を発揮していました。上位の選手は、メダルを首にかけ表彰台の上でボランティアのバンザイ隊の方達と「バンザ〜イ！」と両手を上げ、嬉しそうにしていた姿が印象的でした。

今大会の成績上位者が福岡県代表として、来年、長崎で開催される第 14 回全国障害者スポーツ大会に出場します。

第 33 回
ときめきスポーツ大会

平成 25 年度 第 1 回施設長研修会

平成 25 年 5 月 15 日（水）ホテルセントラーザ博多で、第 1 回施設長研修会が開催され、63 施設から 72 名の参加がありました。今回は、平成 25 年 4 月 1 日施行の「改正高齢者雇用安定法について」をテーマに、末松社会保険労務管理事務所の末松広美氏を講師に迎え、1 時間半にわたり同法の一部改正について講義をいただきました。講義では、同法改正に基づく就業規則や厚生年金の支給開始年齢の引き上げに伴う変更点などを、具体例を挙げながら分かりやすく説明され、各施設においても改正に向けた準備を進めるための有意義な研修会となりました。

平成 25 年度 新任職員研修会

平成 25 年 7 月 1 日（月）九州ビルで、新任職員研修会が開催され、経験年数 3 年未満の職員 100 名以上が参加しました。今回は、第二みろく園施設長であり福岡女子大学国際文理学部の非常勤講師でもある 瀧上明氏から『障害者総合支援法について』をテーマに、障害の程度や種別にかかわらず、その人が必要とするサービスが受けられるように制度の仕組みが一元化されたことなどが話されました。

また久留米大学文学部社会福祉学科教授 門田光司氏からは『権利擁護・障害者虐待防止法について』をテーマに、障害者への虐待の予防と早期発見及び養護者への支援を講じるための本法律は、虐待の種類として（身体的虐待）（性的虐待）（心理的虐待）（経済的虐待）（放置「ネグレクト」）の 5 種に分類される等、本法律の意義について講義をいただきました。

参加した新任職員の皆さんは、一言も聞き逃すまいと熱心に講義を受講していました。



平成 25 年度 第 2 回施設長研修会

平成 25 年 9 月 2 日（月）ホテルセントラーザ博多に、日本知的障害者福祉協会政策委員会副委員長 河原雄一氏を迎え、『障害者総合支援法・障害者福祉の動向』『障害支援区分について』と題し第 2 回施設長研修会を開催いたしました。

河原氏より障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律については、平成 25 年 4 月 1 日よりスタートしましたが、支援区分の創設や重度訪問介護、共同生活介護の共同生活援助への一元化など 26 年度施行スタートや、検討規定（障害者施策を段階的に講じる為、法の施行後 3 年を目途として）など今後の課題や検討が必要だと報告されていました。障害支援区分の在り方に関する特別委員会において今までの障害程度区分についての問題点を整理し、障害者総合福祉法の障害支援区分として、コンピュータ判定型や調査項目の見直し、支給決定プロセスの検討等や障害支援区分判定に係る試行調査の実施から結果の検討を受けて厚労省と施行に向けたスケジュール作りが進んでいるそうです。

今後、日本知的障害者福祉協会政策委員会や障害支援区分の在り方に関する特別委員会での審議、答申が、ご利用者・ご家族の為になるよう厚労省と協議を進めてほしいと考えています。

第39回 九州地区地域生活者交流会 沖縄県大会

平成25年7月6日(土)～7日(日)に九州・沖縄各地より977名の参加があり、ロワジールホテル&スパタワー那覇にて盛大な交流会が開催されました。

40年前より通勤寮利用者の交流の場として開始され、現在はグループホーム、ケアホームで生活される方々を中心に開催されています。

分科会は「私の仕事」、「私の友達・家族」、「私の夢」、「私の余暇」の4つをテーマに、各分科会3名の利用者の方が発表されました。発表後も会場からたくさん質問や自己紹介をされる方がおられ、それぞれに地域社会の中で頑張っている姿を垣間見ることができました。また、利用者の方が主体となり進行・挨拶等をされた開会式や交流会でも沖縄伝統の民謡やアトラクションを観覧させていただき、会場全体が大変ぬくもりのある雰囲気となり、貴重な交流の場を体験されたことと思います。

来年度は第40回を福岡県で開催する予定です。県内からも大勢のご参加をお待ちしております。



利用者の感想

K. Sさん

分科会の発表で皆さん良く発表出来ていると思いました。友達と出かける約束をしたりとコミュニケーションの取り方が上手いと思いました。でも、僕は苦手なので羨ましく思いました。

遊びも仕事も上手につき合っているなと思いました。

Y. Kさん

掃除や洗濯の仕事をしている人の発表があり、自分の仕事と同じ様な事だったので、興味を持って聞く事ができました。

M. Sさん

病気をしたけど頑張っている人の発表がありました。それを聞いて自分はまだ元気だなと思いました。

絵や書き物や草取りが自分の趣味です。まだまだ元気なので頑張っていきます。

K. Kさん

沖縄に行って良い経験をしました。

「自分も知的障害でケアホームで生活していますが、家族と一緒に会う事が嬉しい。」と発表された事が印象に残っています。

発表された方を見て、自分がもし発表するようになれば、緊張してしまうかもしれないけど、発表された方は上手でした。

名刺交換を行い、たくさんの人にお話する事が出来ました。

これからも友達や家族と仲良く暮らして行きたいです。また、交流会に参加したいです。

九州地区知的障害関係施設職員研修大会 大分県大会

平成25年10月17日(木)から18日(金)の二日間、大分県のホルトホール大分で、第46回九州地区知的障害関係施設職員研修大会が九州各地より、総勢約680名の方が参加され盛大に開催されました。

開会式後、社会福祉法人高水福祉会常務理事であり日本相談支援専門員協会の副代表をされている福岡 寿氏より「本人の声に応える支援体制づくりに向けて」の基調講演が行われ、午後より、「日中活動」「生活支援」「就労支援」「相談支援」「医・食・介」「児童」「管理」の7つの分科会に分かれ、講義形式やパネルディスカッション、実践報告、グループ討議などが行われました。

18時より会場を移動し、レンブラントホテル大分にて交流会が行われました。

大会二日目は、前日の分科会の内容報告を各分科会の代表から報告があり、その後、「湯布院の観光地域づくり」と題して、(株)由布院玉の湯代表取締役社長桑野和泉さんより、記念講演がありました。

閉会式では、次期開催県の宮崎県知的障害者施設協議会会長の樋口氏が挨拶をされ、2日間の大会が無事終了しました。



保護者会連合会研修会・手をつなぐ育成会福岡県大会

去る平成25年9月15日(日)にクローバープラザ クローバーホールにおいて、福岡県知的障害者施設保護者会連合会研修会が開催されました。内容は「新しい生活施設への提言」の解説ということで、編集委員にもなっておられる北九州市立大学教授の古賀久氏に詳しく解説していただきました。当協会も共催ということで施設の職員の方々も多く参加させていただきました。利用者を中心に、支えるご家族と同じテーマについて研修を行いました。

また、平成25年9月21日(土)には、「共生社会の実現に向けて」～未来につなぐ私たちの活動～というスローガンで、第33回福岡県手をつなぐ育成会 福岡県大会が開催され、当協会から来賓として副会長がご挨拶をさせていただきました。

今後も私たちの協会が様々な場面において、ご協力させていただきながら、利用者のよりよい生活の為に、研修会、意見交換などをお願いしたいと考えております。

福祉施設の人材確保の5ポイント

株式会社リクルートキャリア

HELPMAN! JAPAN グループ 門野 友彦

①「らしさ」を磨き武器を持つ

「他の施設と比べて何が違うの?」と求職者に問われた時、「私達の『らしさ』はこれだ!」と明確にアピールできる採用ツール(武器)を持つ事です。他業界では当然の様に持っている「採用ツール」がない事が、苦戦している最大の要因です。ワード1枚でも構いません。創りましょう。既にある場合は「らしさ」が盛り込まれているのか点検して下さい。「らしさ」とは、ご利用者様、職員、サービス、地域等に対する「こだわり」。普段当たり前のように思っている「こだわり」を、「具体的な事実やエピソード」「背景」「未来のありたい姿」という3つの切り口で磨く事で、他にはない唯一無二の武器に進化します。ツールを創る(改善する)プロセスが採用力を高めます。出来るだけ多くの職員を巻き込んで、「らしさ」を決定し磨いて下さい。

②求職者への「おもてなし」

ご利用者様、ご家族様と同じように、求職者にも「おもてなし」の精神で接して下さい。「自分がもし求職者だったら嬉しい対応」という基準で採用プロセス(特にスピード)を磨いて下さい。

③WEB、SNSを活用

2000年以降インターネットを使って就職活動を行うのは常識になりました。そんな世代が転職をする際も当然WEBサイトを使います。ホームページが無いのは致命的です。他業界の大手企業のホームページを見て磨いて下さい。今後、当たり前のようにSNSを使うデジタルネイティブ世代が増えてきます。WEB、SNSを使いこなす事でやっとスタートラインに立てる時代になったのです。

④若手(35歳以下)に任せる

「若手を採用したいのなら若手に採用を任せる」というのは採用成功の定石。③の事もありますので思い切って任せましょう。任せる事で若手のモチベーションが上がり成長したという話はよく聞きます。職員全員が採用担当であるという意識を育てるのが経営者の役割です。

⑤皆で力を合わせる

自施設だけで頑張っても限界があります。①～④を皆で一斉にやることで、業界全体の採用力がUPします。採用成功している所はノウハウを出して下さい。そうでないところは素直に吸収して下さい。力を合わせる事で日本全体が幸せになります。

①～④は採用成功している所の共通項です。是非、素直に真似して下さい。

新加盟施設紹介

(平成25年4月～平成25年9月加盟)

社会福祉法人 拓く 共同生活介護 チェムチェム

久留米市内に7箇所（入居者33名）のケアホームがあります。地域の環境や支援者等の特色を活かしながら、それぞれが運営しています。

重度障害のある入居者が多いホームでは、介護リフトを整備したり、医療機関と連携して医療的ケアを提供するなど、どんな状態になっても暮らし続けられるような取り組みを行っています。

また、「地域にとけこみ、地域で暮らし続ける」を大切に、地域行事に参加したり、地域の人をホームに招いて茶話会を行っています。隣組や消防署と連携した避難訓練なども行っています。

今後も地域の皆さまと連携・協力しながら地域に根付いたホームづくりを進めていきます。どうぞよろしくをお願いします。



社会福祉法人PAL 障害福祉サービス事業所 PAL

平成18年9月に無認可作業所から授産施設となり、平成20年2月に新事業へ移行しました。現在、生活介護21名、自立訓練（生活訓練）3名、就労継続支援B型13名、計37名の方が利用されています。印刷業を始め、地域清掃や軽作業、農作業（販売）、手工芸品の作成（販売）の他、個人の能力に合わせた課題作業等も行っています。

平成23年4月には共同生活介護事業「PALホーム」を開設し、夜間支援も始めました。

様々な活動・行事を通し、地域の方々との交流を深めながら、「生活を楽しみ」「社会を楽しみ」「人生を楽しむ」（三楽）一人一人であってほしいとの願いを軸に、生涯支え合うことのできる場作りに向けて、職員、関係者一同前進していきたいと思っています。



社会福祉法人 福岡障害者支援センター 障がい福祉サービス事業所 くれぱす

平成23年4月に開設した「くれぱす」は、生活介護30名定員の通所の事業所です。

福岡市早良区の南部に位置する「くれぱす」は、大自然に囲まれた環境のもと、「働く生活介護」というテーマを掲げ活動を行っています。利用者一人ひとりの個性、特性を活かした仕事（農作業・委託作業・アート活動等）を提供し、働くことへの遣り甲斐や役割意識を育て、働くことを通して情緒の安定と生活の質の向上を目指しています。また、健康に対する維持改善を図ることを目的に、定期的な運動の機会を設け、心と体のリフレッシュも行っています。地域社会というキャンパスに、独自の『くれぱす』色を描いていきますので、今後ともどうぞよろしくをお願いします。



社会福祉法人 光輪会 ソーシャルサポート Tsukinowa

平成25年4月1日よりソーシャルサポートTsukinowa（就労継続支援B型・就労移行支援）を定員20名の多機能型事業所として、築上郡上毛町に開所しました。

就労継続支援B型事業では、生産活動として食品加工業、清掃作業等を中心に、作業に関わる知識及び能力の向上を図ります。また地域で働く意識、意欲につなげていけるような支援を目指します。

就労移行支援事業では、職業訓練、社会訓練の2つのプログラムを中心に、職業訓練では「実践で働く力」、社会訓練では「社会で生きて行く力」を身につけていけるような支援を目指します。また様々な地域資源、関係機関と連携し、利用者の方一人ひとりの思いを大切にしながら一般就労する為に必要な支援を提供できるよう取り組んでいきたいと思ひます。



社会福祉法人 自立の里

障がい福祉サービス事業所 大空

平成8年に開所した「大地」につづく法人2番目の事業所として、平成24年5月に開所いたしました。福岡市の旧月隈公民館施設（博多区月隈六丁目）を活用し、エレベーターの設置などバリアフリー施設としての改修整備を行い、日中活動だけでなく、短期入所事業の実施による夜間支援を含めた支援を開始いたしました。

特に利用者や保護者の皆様からご要望の強かった短期入所事業につきましては、将来のケアホームの実施を見据え、利用者の自立の促進を図るとともに、職員の夜間支援の専門性や経験を深めることを念頭におきながら、「大空」及び「大地」双方の職員が一体となって、皆様に安心して、満足してもらえるサービスの提供に努めているところです。



社会福祉法人 豊徳会

障がい者支援センター くれそん

平成15年10月に、福岡県障害児(者)地域療育等支援事業の委託を受け、田川圏域での地域支援をスタートさせました。

平成18年の自立支援法の施行後も、田川圏域の町村より相談支援事業の委託を受け、「生き生きとした心、生き生きとした地域」を目指して、「中立公正」をモットーに、皆さまの笑顔を見たくて日々支援をさせていただいています。

今年度からは、本格的にサービス等利用計画作成、地域移行・地域定着支援にも取り組み始め、今まで以上に地域や関係機関と連携し、障がいのある方が住み慣れた地域社会の中で自分らしく生活するためのいろいろなお手伝いをさせていただきたいと思っています。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。



社会福祉法人 豊徳会

田川支援センター おあしす

こんにちは、「田川支援センターおあしす」です！

私たち「田川支援センターおあしす」は平成16年4月に障がい児者の居宅介護事業として開設、平成18年9月には介護タクシー事業、その後高齢者訪問介護事業・居宅介護支援事業を併設し、平成24年には特定相談支援事業者の指定を受け、地域の方々の暮らしをサポートしてまいりました。

当法人は、障害者支援施設みろく園を母体とし、「共に生きる」の理念のもと、地域に根ざし、きめ細やかな支援を目指しています。当法人がこれまで多くの方々と共に過ごしてきた経験を活かし、田川市郡（1市6町1村）より移動支援事業の受託、また県下では数少ない行動援護や同行援護サービスにも取り組み、地域の方々の「～したい！」という気持ちが少しでも叶えられたらと、日々奮闘しています。

地域の皆様、各方面から支えて下さる方々と共に、豊かで幸福な日々が過ごせますようこれからもスタッフ一同、初心を忘れず日々研鑽してまいりますので、ご支援を賜りますようお願い致します。

**全国大会福岡県で開催！**

平成26年1月30日(木)・31日(金)、ホテルニューオータニ博多にて障害者支援施設部会全国大会(九州地区福岡大会)が開催されます。障害者支援施設部会としては新体系完全移行後今回が2回目の開催、地方開催は初となり、記念すべき福岡大会は、行政説明・中央情勢報告・シンポジストによる発表は元より、我が福祉協会の創始者でもある石井亮一先生を始め、知的障害者福祉の先駆者を紹介した『天地を拓く』の著者である津曲裕次氏の講演、福岡開催を記念し2011年ユネスコ世界記憶遺産『山本作兵衛、炭坑記録画』登録秘話の記念講演も予定されています。是非、多くの方のご参加をお願いします。

役員交代のご報告

筑後地区選出 太陽の園 野瀬修氏の辞任により後任理事に赤坂園 施設長 田島 茂敬氏が選出され、10月8日開催の役員会で承認されましたことをご報告いたします。

訂正とお詫び

先般発行いたしました本会広報誌「とびうめ第1号」において一部誤りがありました。

障がい者就業・生活支援センターたいよう主任就業支援員 月森隆史 氏 (訂正前)

障害者就業・生活支援センター**じゃんぶ**主任就業支援員 月森隆史 氏 (訂正後)

関係者の皆様には、多大なご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫びいたします。

本会ホームページ URL <http://www.fukuoka-chiteki.jp>

本会では、ホームページによる情報提供を行っています。今後ホームページは随時更新を行いながら、より良いホームページにしていきますので、何かお気づきの点等ございましたら、本会事務局あてにご連絡くださいますようお願いいたします。